

析 - 骨梁レベルまでシミュレートしたモデルを用いて - . 第8回TRIユーザー交流会, 東京, 2004年11月27日, 2004年.

歯科矯正学分野

【論文】

- 1) Saito I, Okamoto Y, Gogen H, Shanfeld J, Hanada K, Davidovitch Z: Alterations in staining intensity for calcitonin gene-related peptide (CGRP) in osteoblasts of the periodontal ligament during orthodontic tooth movement. *Biomedical Res*, 25(3): 147-154, 2004.
- 2) Yamada K, Saito I, Hanada K, Hayashi T: Observation of three cases of temporomandibular joint osteoarthritis and mandibular morphology during adolescence using helical CT. *J Oral Rehabil*, 31(4): 298-305, 2004.
- 3) Gramaticescu CE, Terada K, Ishii K, Watanabe N, Ono K, Morita S, Hanada K: Three-dimensional evaluation of mid-facial development in unilateral cleft lip and palate patients. *Orthodontic Waves*, 63(2): 40-47, 2004.
- 4) Estomaguio GA, Yamada K, Ochi K, Hayashi T, Hanada K: Craniofacial morphology and inclination of the posterior slope of the articular eminence in female patients with and without condylar bone change. *CRANIO*, 22: 2004. (in Press)
- 5) Ali IM, Yamada K, Hanada K: Mandibular antegonial and ramus notch depths and condylar bone change. *J Oral Rehabil*, 32(1): 1-6, 2005.
- 6) Yamada K, Tsuruta A, Hanada K, Hosogai A, Kohno S, Hayashi T: Condylar bone change and sagittal incisal and condylar paths during mandibular protrusive excursion. *CRANIO*, 23: 2005. (in Press)
- 7) Yamada K, Tsuruta A, Hanada K, Hayashi T: Morphology of the articular eminence in temporomandibular joints and condylar bone change. *J Oral Rehabil*, 31(5): 438-444, 2004.
- 8) Tsuruta A, Yamada K, Hanada K, Koyama J, Hayashi T, Hosogai A, Kohno S: Comparison of condylar positions at intercuspal and reference positions in patients with condylar bone change. *J Oral Rehabil*, 31(7): 640-646, 2004.
- 9) Tsuruta A, Yamada K, Hanada K, Hosogai A, Koyama J, Hayashi T, Kohno S: Relationship between morphological changes of the condyle and condylar position in the glenoid fossa. *J Orofacial Pain*, 18(2): 148-155, 2004.
- 10) Chen F, Terada K, Hanada K: A new method of predicting mandibular length increment on the basis of cervical vertebrae. *Angle Orthod*, 74(5): 630-634, 2004.
- 11) Yamada K, Hanada K, Hayashi T: Double contours and craniofacial morphology. *CRANIO*, 23: 2005. (in Press)
- 12) Chen F, Terada K, Hanada K: A Special method of predicting mandibular growth potential for Class III malocclusion. *Angle Orthod*, 75(2): 191-195, 2005.
- 13) Saito I, Yamaki M, Hanada K: Non-surgical treatment of adult open bite using edgewise appliance combined with high-pull headgear and Class III elastics. *Angle Orthod*, 75(2): 277-283, 2005.
- 14) 青砥聖二, 深町博臣, 葭原明弘, 齋藤 功: 咬合分類判定の再現性に関する研究. *Orthodontic Waves*, 63(2): 95-99, 2004.
- 15) 饗場広和, 齋藤 功, 山崎幸一, 古里美幸, 丸山裕子, 八幡 誠, 渡辺 厚, 森田修一, 花田晃治: 新潟大学医歯学総合病院矯正歯科診療室における上顎前突症例のI期治療に関する臨床統計. *甲北信越矯歯誌*, 11(1): 42-46, 2003.
- 16) 長田文子, 吉澤恵美, 穴田真依子, 藤村英理子, かづきれいこ: 婦人科がんにおけるリハビリメイクの実践と効果. *日本顔学会誌*, 4(1): 75-80, 2004.
- 17) 山田一尋: 変形性関節症の臨床的指針に関する研究, - タッピング運動, 咬頭嵌合位 - 最後退位(IP-RCP) slide による検討 - . *日本顎関節学会雑誌*, 16(1): 33-37, 2004.
- 18) 川原のぞみ, 森田修一, 星 隆夫, 花田晃治, 林 孝文: 骨格性下顎前突症患者における術前・術後の下顎骨と舌骨の位置関係について - CT画像による検討 - . *日顎変形誌*, 14(2): 122-130, 2004.
- 19) 山田秀樹, 森田修一, 花田晃治: Angle II級不正咬合の転医症例. *甲北信越矯歯誌*, 11(1): 19-25, 2003.
- 20) 森田修一, 池 元太郎, 花田晃治, 中村 道, 矢野由人: 上顎前突症例における矯正治療後の長期的形態変化について. *甲北信越矯歯誌*, 11(1): 36-41, 2003.
- 21) 小野和宏, 小林正治, 安島久雄, 高木律男, 毛利 環, 橋本明彦, 田中 礼: 垂直的歯槽骨延長法を用いて顎堤形成を行った1例. *新潟歯学会誌*, 34(2): 55-60, 2004.
- 22) 寺田員人, 中川公貴, 山崎幸一, Jabbar Shahiqul, 陳 鳳山, 花田晃治, 宮永美知代: 非接触型3次元表面形状計測装置を用いた顔面部の計測について. *日本顔学会誌*, 4(1): 57-65, 2004.

- 23) 毛利 環: 卒前, 卒後歯科矯正学教育の考え方 - 現状と課題 - (指導: 岩永 雅也教授), 放送大学大学院修士課程教育開発プログラム修士論文, 学位第674号, 2005.
- 24) 星 隆夫: 新潟大学新入生における, 中立咬合及び, 不正咬合の発生率. Monograph of Cinical Orthodontics 26(1): 21-31, 2004.
- 25) 中村順一, 星 隆夫: 叢生を伴う上突咬合, 過蓋咬合症例 - 期治療の効果をいじでせず, 期治療で多数歯抜歯により治療した症例 - . Monograph of Cinical Orthodontics, 26(1): 61-75, 2004.
- 26) 八巻正樹: デジタル情報の管理と応用. Monograph of Cinical Orthodontics, 26(1): 38-48, 2004.
- 27) 廣島邦泰: Angle 級叢生症例の一治験例. Monograph of Cinical Orthodontics, 26(1): 76-83, 2004.

【著書】

- 1) 山田一尋: 変形性関節症と顔面形態・咬合. 日本学術会議交合学研究連絡委員会主催第18期第3回シンポジウム「咬合因子をどのように捉えるか」(小林義典, 赤川安正, 相馬邦道, 田中貴信, 西山 實, 藤井弘之, 山田好秋, 渡辺 誠編). 65-70頁, 日本学術会議咬合学研究連絡委員会, 2004.
- 2) 山田一尋: 成人期の顎関節症へのアプローチ - 口腔の成育をはかる - 2巻 具体的例から実感する成育のマインドとストラテジー. (佐々木洋, 田中英一, 菅原準二編), 168-173頁, 医歯薬出版株式会社, 2004.
- 3) かづきれいこ, 田上順次編: デンタル・メディカルスタッフのためのリハビリメルク入門. 医歯薬出版株式会社, 東京, 2004.
- 4) 森田修一: ブックレット新潟大学25『顔から学ぶ』顔と歯科矯正 22-25頁, 新潟日報事業社, 2004.
- 5) 毛利 環: クラウンブリッジの臨床 - スカンジナビアンアプローチ - (監訳: 岡本 浩, 竹内泰子 他編), 1-384頁, クインテッセンス出版, 2004, 東京
- 6) 毛利 環: Lindhe 臨床歯周病学とインプラント(基礎編) 監訳 岡本 浩, 他, クインテッセンス出版, 2004, 東京

【商業誌】

- 1) 星 隆夫: 矯正治療を習得する上で忘れてはいけないこと 知識, 技術, 経験, 人間性 - 矯正臨床医に関する要素・資質を考える - . JOP 20(8): 63-76, 東京臨床出版, 2004.

【研究成果報告書】

- 1) 森田修一, 花田晃治, 朝日藤寿一, 小野和宏, 高木律男, 齋藤 功, 寺尾恵美子, 毛利 環, 館村 卓, 幸地省子, 須佐美隆史, 大塚純正, 根来武史, 北井則行: 片側性唇顎口蓋裂患者に関する他施設比較研究, 平成16年度科学研究費補助金, 基盤研究(B)(2), 研究課題番号 14370692, 2003.

【講演・シンポジウム】

- 1) 山田一尋: シンポジウム「顎機能障害の保存療法の最前線」矯正治療における顎関節症患者への対応. 第17回日本顎関節学会総会, 新潟, 2004年7月5日, 日本顎関節学会雑誌, 2004年.(まだ未掲載)
- 2) Saito I, Terada K, Yamazaki K: Orthodontic cases treated with standard edgewise appliance in Niigata University Medical and Dental Hospital. 吉林大学, 長春(中国) 2004年10月13-17日, 2004年.
- 3) Saito I, Terada K, Yamazaki K, Aasahito T: Non-surgical and surgical treatment of adult open bite cases. 同済大学, 上海(中国) 2004年10月18-20日, 2004年.
- 4) Asahito T: Management of Cleft Lip and Palate patients in Niigata University Dental hospital. 同済大学, 上海(中国) 2004年10月18-20日, 2004年.
- 5) 花田晃治, 朝日藤寿一, 森田修一, 須佐美隆史, 根来武史, 館村 卓: 日本における片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設比較研究, 日本歯科医学会総会, 横浜, 2004年10月29日, 日本歯科医師会雑誌, 57(4), 372頁, 2004年.
- 6) 朝日藤寿一: 日本における片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設比較研究・Part1: 本研究の目的, 概要および治療プロトコールについて. 第63回日本矯正歯科学会, 福岡 2004年11月18日. 日本矯正歯科学会雑誌 2004, 抄録集, 91頁, 2004年.
- 7) 森田修一: 日本における片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設比較研究 Part 2: 顎顔面形態の評価結果について. 第63回日本矯正歯科学会, 福岡, 2004年11月18日. 日本矯正歯科学会雑誌 2004, 抄録集, 185頁, 2004年.
- 8) 齋藤 功: 学童期における矯正治療の考え方. 豊栄市歯科医師会主催「学校歯科保健研修会」, 新発田市, 2004年12月2日, 2004年.
- 9) 毛利 環: Herbst Appliance の全貌. 矯正歯科臨床セミナー, 東京, 2004年11月3日, 2004年.
- 10) 毛利 環: なぜ, 今 PBL チュートリアル教育が必要か? - スウェーデン・マルメ大学におけるフル PBL 歯学教育の概要とその背景. 松本歯科大学 FD 研修会, 松本歯科大学, 2005年2月24日, 2005年.

- 11) 朝日藤寿一: 唇顎口蓋裂症例に対する歯科矯正治療とその問題点. 新潟県歯科医師会障害者歯科研修セミナー, 3月25日, 2005年.

【学会発表】

- 1) Rezwana B A, Tanaka M, Kohno S, Ikegame M, Watanabe N, Ali M N, Ejiri S: Observation of microstructural changes in the molar alveolar bone of ovariectomized monkeys. 111th Scientific Meeting of Japan Prosthodontic Society, 2nd Joint Meeting of JPS and KAP, DENTSPLY Award for Japan Prosthodontic Society in the 111th Congress, Tokyo, 5. 22, 2004. 日本補綴歯科学会雑誌 48 Special Issue 149, 2004.
- 2) Rezwana B A, Tanaka M, Kohno S, Ikegame M, Watanabe N, Ali M N, Ejiri S: Relationship between microstructural changes of molar alveolar bone and lumbar bone mineral density in ovariectomized monkeys. 1st Asian pacific congress of bone morphometry, Takamatsu, 2004年6月25 - 26日, 日本骨形態計測学会雑誌, 14(2), 87頁, 2004年.
- 3) Watanabe N, Tanaka M, Rezwana B A, Ikegame M, Kohno S, Hanada K, Ejiri S: Effects of estrogen deficiency on monkey mandibular condyles, and its correlation with mechanical stress caused by mastication. 1st Asian pacific congress of bone morphometry, Takamatsu, 2004年6月25 - 26日, 日本骨形態計測学会雑誌, 14(2), 87頁, 2004年.
- 4) Tanaka M, Watanabe N, Kohno S, Ikegame M, Rezwana B A, Ejiri S: Estrogen deficiency-induced alveolar bone loss around monkey canine. 1st Asian pacific congress of bone morphometry, Takamatsu, 2004年6月25 - 26日, 日本骨形態計測学会雑誌, 14(2), 103頁, 2004年.
- 5) 八巻正樹: 臨床のヒント「デジタル情報の管理と応用」. 与五沢矯正研究会, 東京, 2004年4月13日, 2004年.
- 6) 布田花子, 森田修一, 山田秀樹, 齊藤 力, 高木律男, 花田晃治: Le Fort 型骨切り術に伴う鼻部の変化 - 上下顎移動術を施行した女性骨格性下顎前突症例について -. 新潟歯学会, 新潟, 2004年4月24日, 新潟歯学会誌, 34(1), 72頁, 2004年.
- 7) Ali Y, Yamada K, Hanada K: Mandibular antegonial and ramus notch depths and condylar bone change. 新潟歯学会, 新潟, 2004年4月24日, 新潟歯学会誌, 34(1), 73頁, 2004年.
- 8) 小山純市, 西山秀昌, 林 孝文, 山田一尋, 高木律男, 齊藤 力: 顎関節症患者における下顎頭骨変化の研究. 新潟歯学会, 新潟, 2004年4月24日, 新潟歯学会誌, 34(1), 73頁, 2004年.
- 9) 山崎幸一, 寺田真人, 中村順一, 稲見佳大, 中川公貴, 川原のぞみ, 森田修一, 齊藤 力, 高木律男, 林孝文, 花田晃治: 顎矯正手術による硬組織変化に対する軟組織変化の三次元分析. 日本顎変形症学会, 福岡, 2004年5月25-26日, 日顎変形誌, 14(3), 249頁, 2004年.
- 10) 布田花子, 森田修一, 中川麻里, 花田晃治, 齊藤 力, 高木 律男: 顔貌非対称症例における正貌軟組織変化. 日本顎変形症学会, 福岡, 2004年5月25-26日, 日顎変形誌, 14(3), 134頁, 2004年.
- 11) 朝日藤寿一, 大塚純正, 毛利 環, 寺尾恵美子, 小野和宏, 根来武史, 花田晃治, 須佐美隆史, 森田修一, 舘村 卓: 日本における片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設比較研究 - Part1 研究の概要について - 第28回日本口蓋裂学会, 鹿児島, 2004年5月27-28日, 日本口蓋裂学会雑誌 29(2), 184頁, 2004年.
- 12) 森田修一, 朝日藤寿一, 小野和宏, 毛利 環, 石井一裕, 高木律男, 寺尾恵美子, 幸地省子, 須佐美隆史, 大塚純正, 根来武史, 北井則行, 舘村 卓, 花田晃治: 日本における唇顎口蓋裂治療に関する多施設比較研究 - Part 2 顎顔面形態の評価結果について. 第28回日本口蓋裂学会, 鹿児島, 2004年5月27-28日, 日本口蓋裂学会雑誌, 29(2), 185頁, 2004年.
- 13) 須佐美隆史, 朝日藤寿一, 根来武史, 北井則行, 幸地省子, 大塚純正, 毛利 環, 森田修一, 小野和宏, 舘村 卓, 石井一裕, 萩原祐二, 寺尾恵美子, 高戸 毅, 高木律男, 花田晃治: 日本における片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設比較研究 - Part3 咬合状態の評価結果について. 第28回日本口蓋裂学会総会, 鹿児島, 2004年5月27 - 28日, 日本口蓋裂学会雑誌 29(2), 186, 2004年.
- 14) 根来武史, 朝日藤寿一, 毛利 環, 森田修一, 八巻正樹, 小野和宏, 高木律男, 石井一裕, 幸地省子, 大塚純正, 須佐美隆史, 北井則行, 舘村 卓, 寺尾恵美子, 後藤滋巳, 花田晃治: 日本における片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設比較研究 - Part4 口唇・外鼻形態の評価結果について. 第28回日本口蓋裂学会総会, 鹿児島, 2004年5月27 - 28日, 日本口蓋裂学会雑誌 29(2), 187, 2004年.
- 15) 舘村 卓, 寺尾恵美子, 小野和宏, 高木律男, 幸地省子, 須佐美隆史, 大塚純正, 根来武史, 北井則行, 朝日藤寿一, 石井一裕, 毛利 環, 森田修一, 和田 健, 花田晃治: 日本における片側性唇顎口蓋裂治療に関する多施設比較研究 - Part5 音声言語成績のための評価案と試用結果. 第28回日本口蓋裂学会総会,

- 鹿児島, 2004年5月27 - 28日, 日本口蓋裂学会雑誌 29(2), 188, 2004年.
- 16) 古里美幸, 森田修一, 朝日藤寿一: Hotz床併用二段階口蓋形成手術を行った片側性唇顎口蓋裂患者における外鼻形態の成長変化. 第28回日本口蓋裂学会, 鹿児島, 2004年5月27 - 28日, 日本口蓋裂学会雑誌, 29(2), 150頁, 2004年.
- 17) 小栗由充: 上顎左右犬歯の欠損を伴う lateral open bite. 第19回甲北信越矯正歯科学会, 湯沢, 2004年5月30日, プログラム抄録, 35頁, 2004年.
- 18) 長沼一雄: アンクルI級叢生症例. 第19回甲北信越矯正歯科学会, 湯沢, 2004年5月30日, プログラム抄録, 33頁, 2004年.
- 19) 齋藤 功: 6本抜歯により治療した下後退顎および舌小帯短縮症を伴ったアンクル 級成人開咬合. 第19回甲北信越矯正歯科学会大会, 湯沢, 2004年5月30日, プログラム抄録, 24頁, 2004年.
- 20) 新部洋史: アンクル 級叢生症例. 第19回甲北信越矯正歯科学会, 湯沢, 2004年5月30日, プログラム抄録, 34頁, 2004年.
- 21) 藤井規孝, 魚島勝美, 高木律男, 興地隆史, 齋藤 功, 小野和宏, 山村健介, 中島貴子, 山田好秋, 宮崎秀夫, 前田健康: 新潟大学歯学部におけるFDワークショップの試み. 第23回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 新潟市, 2004年7月1 - 2日, プログラム・抄録集, 31頁, 2004年.
- 22) 島田達雄, 平下斐雄, 内藤 徹, 毛利 環, 朝日藤寿一, 星 隆夫, 齋藤 功, 森田修一, 花田晃治: 歯科矯正学卒後研修カリキュラムにおけるEBM関連教育の実施状況. 第23回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 新潟市, 2004年7月1 - 2日, プログラム・抄録集, 88頁, 2004年.
- 23) 田中みか子, 渡邊直子, 河野正司, 池亀美華, リズワナ・ビンテ・アンワール, 江尻貞一: エストロゲン欠乏と歯槽骨変化 - 卵巣摘出サルの犬歯部歯槽骨の解析 -. 第24回日本骨形態計測学会, 高松, 2004年7月4 - 9日, 日本骨形態計測学会雑誌, 14(2), 55頁, 2004年.
- 24) 渡邊直子, 江尻貞一, 田中みか子, リズワナ・ビンテ・アンワール, 池亀美華, 河野正司: 卵巣摘出によるサル下顎頭の骨密度及び構造の変化と応力分布について. 第17回日本顎関節学会総会・学術大会, 新潟, 2004年7月4 - 5日, 日本顎関節学会雑誌, 17(1), 80 - 81, 2005, 第17回日本顎関節学会学術大会ポスター発表優秀賞, 2005年.
- 25) 荒井良明, 寺田員人, 高木律男, 西山秀昌, 山田一尋, 高田佳之, 小野由紀子, 安島久雄, 桜井直樹, 井伊直子: 本院における10年間(1994-2003)の顎関節症治療の臨床統計学的検討. 第17回日本顎関節学会総会・学術大会, 新潟, 2004年7月4 - 5日, 日本顎関節学会雑誌, 17(1), 84頁, 2005年.
- 26) 櫻井直樹, 河野正司, 林 孝文, 寺田員人, 荒井良明, 鈴木一郎, 星名秀行, 山田一尋, 松崎正樹: 顎関節症遠隔診断支援システム構築のための予備的調査. 第17回日本顎関節学会総会, 新潟, 2004年7月4 - 5日, 日本顎関節学会雑誌, 17(1), 86頁, 2005年.
- 27) 金谷登紀子, 金子 昇, 天池千嘉子, 福嶋牧子, 森田修一, 宮崎秀夫, 花田晃治: 固定式矯正装置がカリエスリスク及び口腔内細菌叢に及ぼす影響. 平成16年度新潟歯学会第1回例会, 新潟, 2004年7月10日, 新潟歯学会誌, 34(2), 273頁, 2004年.
- 28) 内田嘉寿子, 寺田員人, 朝日藤寿一, 森田修一, 花田晃治: リハビリメイクの精神心理学的効果についての研究. 平成16年度新潟歯学会第1回例会, 新潟, 2004年7月10日, 新潟歯学会誌, 34(2), 274頁, 2004年.
- 29) 山崎幸一, 寺田員人, 中村順一, 稲見佳大, 中川公貴, 川原のぞみ, 森田修一, 齋藤 功, 高木律男, 林 孝文, 花田晃治: 偏位を伴う骨格性下顎前突患者における顎矯正手術による硬組織変化に対する軟組織変化の三次元分析. 平成16年度新潟歯学会第1回例会, 新潟, 2004年7月10日, 新潟歯学会誌, 34(2), 273頁, 2004年.
- 30) 枝並和男, 松原大樹, 山崎幸一, 齋藤 功, 寺田員人: 骨格性下顎前突症患者における anterior ratio について. 平成16年度新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2004年11月13日, 新潟歯学会誌, 34(2), 293頁, 2004年.
- 31) 田中みか子, 河野正司, 渡邊直子, 池亀美華, 江尻貞一: エストロゲン欠乏による歯槽骨梁構造の変化に関する基礎的検討. 日本歯科医学会総会, 横浜, 2004年10月29 - 30日. 日本歯科医学会雑誌, 57(4), 114頁, 2004年.
- 32) 山田一尋, 細貝暁子, 田島 卓, 河野正司, 花田晃治: 顎関節の骨形態変化が顎運動をどのように変えているか. 日本歯科医学会総会, 横浜, 2004年10月31日, 日本歯科医学会雑誌, 57(4), 78頁, 2004年.
- 33) 金谷登紀子, 金子 昇, 天池千嘉子, 福嶋牧子, 森田修一, 齋藤 功, 花田晃治: 固定式矯正装置とカリエスリスク及び口腔内細菌叢との関連. 第63回日本矯正歯科学会大会, 福岡, 2004年11月17 - 19日, プログラム・抄録集, 266頁, 2004年.
- 34) 澤田美穂, 齋藤 功, 三瀬 泰, 渡邊直子, 森田修一: 成長期の上顎前突(上突咬合)における下顎枝幅径の成長変化の予測. 第63回日本矯正歯科学会大会, 福岡, 2004年11月17 - 19日, プログラム・抄録集,

158 頁, 2004 年 .

- 35) 池 元太郎, 森田修一, 星隆夫, 竹山雅規, 山田秀樹, 齋藤 功, 花田晃治: 日本人成人の頭蓋顔面における硬・軟組織の加齢に伴う変化について. 第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡, 2004 年 11 月 17 - 19 日, プログラム・抄録集, 161 頁, 2004 年 .
- 36) 渡辺 厚, 毛利 環, 宮崎秀夫, 星 隆夫, 森田修一, 花田晃治: 矯正治療必要度 (IOTN) と本人の歯並びに対する認識, 満足度の関係. 第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡, 2004 年 11 月 17 - 19 日, プログラム・抄録集, 228 頁, 2004 年 .
- 37) 宮城尚史, 山田一尋, 福井忠雄, 河野正司, 林 豊彦, 齋藤 功, 花田晃治: 骨格性下顎前突症患者における咀嚼運動の解析 - 顎運動 - 筋電図同時測定システムによる検討 -. 第 63 回日本矯正歯科学会学術大会, 福岡, 2004 年 11 月 17 - 19 日, プログラム・抄録集, 169 頁, 2004 年 .
- 38) 星 隆夫, 川原のぞみ, 中村順一, 越知佳奈子, 毛利 環, 八巻正樹, 齋藤 功, 森田修一: Dental Aesthetic Index (DAI) と矯正治療率の性差および地域差, ならびに DAI と治療希望度との関係. 第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡, 2004 年 11 月 17 - 19 日, プログラム・抄録集, 177 頁, 2004 年 .
- 39) 毛利 環, 朝日藤寿一, 森田修一, 花田晃治, 相馬邦道, 末石研二, 山口秀晴, 葛西一貴, ポンデマルク ラーシュ, ステンピック アリルド: スカンジナビアと EU における卒前, 卒後歯科矯正学教育 - わが国の歯科矯正学教育モデルとなりうるか -. 第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡, 2004 年 11 月 17 - 19 日, プログラム・抄録集, 320 頁, 2004 年 .
- 42) Kanaya T, Kaneko N, Amaike C, Fukushima M, Morita S, Miyazaki H, Saito I: The effect of orthodontic appliances on levels of Streptococcus mutans and Streptococcus sobrinus, and microbial flora in saliva. International Symposium for Interface Oral Health Science, Sendai, Feb 2-3, 2005, Program and Abstracts, P48, 2005.
- 43) 毛利 環, 朝日藤寿一, 森田修一, 花田晃治, 荒木孝二, 大山 篤, 相馬邦道, 末石研二, 山口秀晴, 葛西一貴: 公開セミナー「わが国の今後の卒前, 卒後歯科矯正学教育を考える」の概要と参加者アンケート結果. 第 23 回日本歯科医学教育学会大会, 新潟, 2004 年 7 月 1 - 2 日, 第 23 回日本歯科医学教育学会大会・抄録集, 51 頁, 2004 年 .

【研究会発表】

- 1) 朝日藤 寿一: 母親教室 - 口唇口蓋裂のお子さんの歯ならびとその治療について -. 新潟大学医歯学総

合病院口蓋裂診療班, 新潟, 2004 年 11 月 1 日 .

- 2) 星 隆夫: 新潟大学の新生生の咬合を分類してみました. 与五沢矯正研究会, ラディソン都ホテル東京, 2004 年 4 月 13 日 .

【その他】

- 1) 毛利 環 (研究代表者: 河野正司): 矯正治療に関連した歯の移植. 平成 13 - 15 年度文部科学省高度先進医療開発経費「歯の移植と歯の凍結保存」研究成果報告書, 報告 6, 36-41, 2004.
- 2) 森田修一: きれいな歯ならびは生涯の宝もの. 平成 16 年度新潟大学歯学部公開講座「白い歯, ピンクの歯肉, すてきな笑顔」, 新潟, 2004 年 10 月 1 日 .

小児歯科学分野

【論文】

- 1) Kinoshita S, Tomizawa M, Noda T: Congenitally missing lower primary canine, anomalous lower primary first molar and impacted supernumerary premolar in one dental arch: Case report. Ped Dent J, 14(1): 135-140, 2004.
- 2) Kinoshita-Kawano. S, Kawano. S, Noda, T, Maeda, T: Immunolocalization of corticosteroid hormone receptor in the mechanoreceptors in rat oral tissues. Biomedical Research, 25 (1): 35-43, 2004.
- 3) Yoshizawa T, Takizawa F, Iizawa F, Ishibashi O, Kawashima H, Matsuda A, Endo N, Kawashima H: Homeobox protein MSX2 acts as a molecular defense mechanism for preventing ossification in ligament fibroblasts. Mol Cell Biol, 24: 3460-3472, 2004.
- 4) Tomizawa M, Otsuka Y, Noda, T: Clinical observations of odontomas in Japanese children: 39 cases including one recurrent case. Int. J. Paediatr. Dent, 15: 37-43, 2005.
- 5) Taguchi Y, Kobayashi H, Noda T: A diagnostic proposal to support early treatment of ectopically erupting maxillary canines. Ped Dent J, 15: 52-57, 2005.
- 6) Otsuka Y, Matsuyama J, Iwano T, Tomizawa M, Noda T: Chronic benign neutropenia diagnosed due to severe stomatitis: a case report. Ped Dent J, 15: 134-138, 2005.
- 7) Ohshima H, Nakasone N, Hashimoto E, Sakai H, Nakakura-Ohshima K, Harada H: The eternal tooth germ is formed at the apical end of continuously growing teeth. Arch Oral Biol, 50: 153-157, 2005.
- 8) Mitomi T, Tomizawa M, Noda T: Tooth